

患者様の院内感染はもちろん、スタッフの感染予防にも尽力

感染制御部 中野夏代 副看護師長



PROFILE

なかのなつよ◎1991年自衛隊中央病院高等看護学院卒業。1996年より当院勤務。看護学校時代には、自衛隊の訓練も体験。趣味はスキューバダイビング。最近では海へ行く時間が無く、愛媛の海にはまだ潜れていないそう。

私は感染管理の認定看護師になり、感染制御部の専任として、病院内を組織横断的に活動しています。感染制御部の主要な目的は、全ての患者様を院内感染から守るということと、病院で働く全ての職員を感染から守ることで、そのための業務は、病院内からの感染に対する相談を受けつけ、抗菌薬の指導、予防対策の技術指導、教育などを行います。感染制御に関して、ガイドラインや指針などはたくさんありますが、実際にそれらを当院で継続して行うにはどうしたらいいのか、具体的な対策を立てるのは大変ですね。既存のガイドラインを現場にそのまま伝えても、遵守や実施は難しい。できるだけスムーズに、現場で受け入れてもらうためにはどうすればいいのかを、常に考えなければなりません。

感染制御は患者様だけを対象と考える病院も多いと思うのですが、医療従事者自身が健康を保つことで、患者様への感染リスクを減らすことができます。当院でも以前はインフルエンザや麻しんなどのワクチン接種を、職員本人の意志に任せていたのですが、接種を呼びかけたことで、ここ3年ほどは皆さんに協力いただき、インフルエンザなどの発生はほとんどありません。組織として病院がとても協力的で、検査・ワクチン接種などの費用を全て負担してくれるので、職員も受けやすいようです。

院内感染を防ぐためには、患者様の協力が不可欠。当院では受付などに、速乾性の手指消毒剤やマスクを設置していますので、咳のある方、病状が気になる方などは気軽に使っていただけると嬉しいですね。

子宮がんなど、婦人科の手術、治療は低侵襲の時代

産科婦人科 草薙康城 医師



PROFILE

くさなぎやすき◎愛媛大学医学部附属病院・産科婦人科助教。1987年愛媛大学医学部卒業。卒業後、当院勤務。市立八幡浜総合病院、愛媛県立中央病院を経て、再び当院へ。周産期医療、婦人科腫瘍を専門に活躍。趣味は子どもとテニスをする事。

私は、周産期学と婦人科腫瘍学が専門です。以前は子宮がん、子宮頸がんというと子宮全体をとってしまう手術が一般的でした。現在は子宮を残す手術や体により負担の少ない低侵襲の手術が多くなっています。がんでだけでなく、婦人科の手術は腹部を切る手術がほとんどでしたが、今は内視鏡などのカメラを使った手術が増えました。当院でも積極的に、患者様への負担が少ない治療を目指し、現在、婦人科の手術の約半数は、腹腔鏡による手術です。また、近年は若年層の子宮がんが増加し、以前は40代からだったがん検診が、昨年より20歳から勧めているほど。若年の方はこれから出産を望む場合が多く、私たちは患者様とよく相談して、子宮温存や体に負担の少ない治療ができるよう最大限の努力をしています。実際に、20代で子宮がんの治療後、出産

された方が何人もいらっしゃいます。婦人科に限らず、がんの治療は早期発見、早期治療が何より大切。特にこれから出産をされる場合においては、より一層重要です。そのためにも若い方でも定期的に検診をしてください。当院には女性医師も多くなりますので、安心して受診できると思います。紹介の場合も早期の検査や治療が望まれますので、気軽にご相談ください。

産婦人科医の不足は愛媛県も例外ではありません。ただ、県では医師の集約化を図ることで、どの市町村からも車で30分圏内に主要病院があり産婦人科を置いています。松山市周辺では当院と、愛媛県立中央病院、松山赤十字病院が協力して、急患を受け入れています。ですから、全国で問題になっている急患のたらい回しなど、愛媛県ではまず起こらないと思ってください。